

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100343		
法人名	医療法人 寿仁会		
事業所名	グループホームファミーユ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮2丁目1番18号ユートピア沖縄		
自己評価作成日	令和6年10月20日	評価結果市町村受理日	令和7年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100343-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和6年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームファミーユは、サービス付高齢者向け住宅ユートピア沖縄の4Fに位置し、2階にはクリニック絆、デイサービス、認可保育園が併設されている。職員や入居者同士の交流機会もあり、様々な行事なども一緒に行うことが出来る。那覇市の中心地で、交通アクセスも便利になっています。向かいには沖縄セントラル病院や沖縄看護大学、沖縄赤十字病院があり、医療施設が多数存在しており、安心して過ごせる環境が出来る場所となっています。また、訪問看護ステーションアレグリアと医療連携をしており、入居者様の健康管理にも力を入れており看取りも行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体となり、事業所は8階建ての複合施設の4階に位置している。施設内にはクリニックや保育園、他の介護保険サービス事業所など、さまざまな施設があり、3階のアトランティス広場では屋外菜園を楽しんだり、開所当初から飼われている犬と触れ合ったりすることができ、利用者の散歩場所や複合施設内の交流の場となっている。また、施設全体の地域交流イベントとして、建物内で懐メロや昔の映画を上映するシネマ会が開催されている。事業所の理念である「笑顔を引き出すケア」や「心を柔軟に、気軽に相談できるようなケア」を実践し、利用者がゆったりと穏やかに過ごせるよう支援している。日頃から施設外へ散歩に出かけ、買い物などを通じて利用者の気分転換が図られている。さらに、毎月ウクレレや三線のボランティア演奏が行われ、食事は利用者の好みに合わせて提供され、楽しんでもらえるよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の理念唱和はできていない。 勉強会の際に職員には理念を再確認できるよう取り組んでいます。また、日々の入居者及び家族様への対応などでは、入居者がやりたい事を共にできるように取り組んでいます。また、利用者と一緒に生活を楽しみ過ごしています。	事業所独自の理念は、約2年前に前管理者と当時の職員で話し合い、作り直した。この理念に加え、法人の設立基本理念や品質目標も共有スペースに掲示している。管理者は月に1回程度の勉強会で、職員が理念に沿った支援ができるよう意識して話をしており、職員は「笑顔を引き出すケア」や「心を柔軟に気軽に相談できるようなケア」を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外部のボランティアによるウクレレの演奏会を開始。(月1回) サ高住の入居者の方による三味線演奏会を開始。(月1回) 定期的に近隣への散歩を実施。近隣のコンビニエンスストアに買い物に出掛けている。	事業所のある複合施設の2階フロアで、毎月地域交流イベントとしてシネマ会が開催され、利用者や地域住民も参加できる。また、事業所内では毎月ボランティアによるウクレレ演奏や、複合施設内の入居者による三線演奏も行われている。今後は、管理者を中心に、複合施設内で利用者や地域住民も参加できる三線サークルを立ち上げる計画をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や行政以外の近隣住民への発信は出来ない。 入居者様が出来ることを、一緒に行いながら役割を作っていくようケアを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、他の事業所、利用者様、職員にて意見交換を行っている。 ご家族様への参加の呼びかけが出来ていない。	会議は2ヶ月に1回開催されているが、構成員が揃っていない時がある。議事録は委員および全利用者の家族に配布し、事業所内の共有スペースにファイリングして閲覧可能な状態にしている。委員からは「ヒヤリハット」の報告が少なく、「事故」が発生している状況について意見があり、ヒヤリハットを報告しやすくするための書式作成など、改善に取り組んでいる。	構成員に対し、提供しているサービス内容等を明らかにすることで事業所による利用者の「抱え込み」を防止し、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図るため、利用者家族代表と地域代表の会議参加も望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催や各種研修の案内、制度改正などによる通達事項がある際は、直接事業所内メールでのやり取りや、電話で確認し連携を取っている。	運営推進会議には、市役所の担当者と地域包括支援センターの職員が参加している。市の担当者からは、消防訓練について、複合施設全体で一斉に実施することが望ましいとの助言を受け、それを踏まえて消防訓練の計画を立てている。また、日頃から研修の案内などがメールで届き、必要な際には円滑に連携できる関係が築けている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的(3ヶ月に一回)職員で身体拘束について勉強会をおこない、話し合い、どこまでが身体拘束に当たるのか確認して、日々の業務を振り返りケアの見直しを行っている。 運営推進会議ではその内容を報告している。	身体拘束適正化のための指針が整備され、3ヶ月に1回、身体拘束等適正化委員会が開催されている。会議時の議事録は運営推進会議で報告され、職員も内容を閲覧している。また、職員には年3回の研修が実施されており、入居時には家族に対して身体拘束に関するリスクについて説明が行われている。現在、身体的拘束等は行われていない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的(3ヶ月に一回)職員で高齢者虐待について勉強会をおこない、話し合い、どこまでが身体拘束に当たるのか確認して、日々の業務を振り返りケアの見直しを行っている。 運営推進会議ではその内容を報告している。	虐待防止のための対策を検討する委員会は、身体拘束適正化委員会と同日に開催され、職員への研修も年3回実施されている。また、虐待防止に関する指針とマニュアルが整備され、法人全体でストレスチェックが実施されている。管理者は、職員の疲労やストレスへの対処として、適宜声かけや勤務の調整を行うなど配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は権利擁護に関する制度などの学びは行っていますが、事業所内での勉強会の開催には至っていない。 パンフレットや資料をスタッフが見やすいように、スタッフルームに置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはしっかりと内容を説明して、疑問点にもお答えするように努めています。また、法改定や加算の変更などがあつた際には連絡して直接説明して承認を得るようにしています。但し、遠方の家族など来所する事が困難な際は郵送して文書と電話での説明をして承認を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様の要望や意見内容は電話やメールでやり取りをして、職員には申し送りに記載して確認してもらっている。	利用者からの意見は日頃のケアの中で聞き取り、居室の鍵を利用者自身が持ち歩いたり、買い物や散歩などの希望にも対応している。また、家族からは面会時や職員からの電話連絡時に意見を聞き取り、家族の希望により、食欲が落ちている利用者にも食事を楽しんでもらうために家族が差し入れた食べ物を提供したり、職員が時間をかけて食事介助を行い、摂取を促している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りを活用し、業務の中で見直しが必要な部分を職員間で共有している。ケアの内容を振り返り、職員からの提案があれば皆で検討し、取り入れるように取り組んでいます。	管理者は職員の意見を聞きながら、利用者及び介護者の身体的負担の軽減を図るため、移乗用のスライディングボードや、利用者の状態にも合い、移乗介助がしやすい車いす等を選定して導入している。また、看取りケアに関して職員の負担や不安緩和のために24時間対応できる訪問看護の利用にもつなげている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課表を作成し、職員それぞれの自己評価、スキルアップ計画を作成し、賞与及び基本給アップに反映させている。希望休の受け入れ、有給休暇取得が全職員取れるようにしている。	職員は定期的な健康診断を受け、希望休や有給休暇は勤務状況を考慮して調整されている。法人用のラインワークスを活用することで、法人内の各事業所の研修予定が確認でき、臨機応変に別事業所の研修にも参加できるようにしている。さらに、ハラスメント防止のための指針とマニュアルが整備され、研修も実施されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外研修案内など、メールで届いた研修案内は、職員が閲覧できるようにファイルに入れている。必要な研修案内は参加の提案もしている。また、法人の3つの事業所で各事業所で勉強会をしていますが、別の事業所の勉強会にも参加できるように、声掛け促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム管理者と連絡を電話やメールで取り合っており、互いの運営推進会議への参加を呼びかけを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は常に利用者に寄り添い、話を聞いてからケアに当たる事を心掛けています。可能な限り本人の生活のリズムを崩さず、本人の要望や不安を聞いて、本人が安心して過ごせるように支援しています。また、ご家族にも本人が思っている不安を伝え、電話で話をする機会を作り協力をお願いしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係を構築するために、入居者様の状態をご家族様に定期的にお伝えするよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要なときは、ご本人様、ご家族様、専門職の方と情報を共有して、検討するようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の個性に合わせて、本人ができること、やりたいこと、できる可能性のある事をサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回は、電話やメールで状況を報告して生活日用品の依頼も行うようになっている。また、食事を作って持ってきてくれる家族に対しては、本人の状態に合わせた食事形態の提案なども行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、家族、親戚に連絡を入れ、やり取りができるように支援している。	学生時代の友人や入居前の近所の方が、利用者を訪ねて面会に来たり、電話があったり、県外にいる友人からはがきが届いたりするなど、関係の継続ができています。また、利用者の馴染みの場所へドライブに出かけることもある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢問わず、気の合う入居者様同士の席の配置を行い楽しく過ごせるよう心がけている。また、お互いの部屋も行き来できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去されて契約終了された方が、いましてが通夜には自宅に伺いました。その後の退去までの間でお話をする機会が2度ほどありましたが、特に相談お受けることはありませんでした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、家族様の言葉をそのまま、ケアプランに反映させて、計画書の周知に努めている。	入居前の生活環境でアセスメントを実施し、利用者のこれまでの暮らし方や入居後の希望する暮らし方を聞き取っている。入居後も、利用者が行きたい場所に出かけたり、居室の鍵を自身で管理したり、就寝前後のパジャマへの着替えなど、日常の習慣が継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当していたケアマネ、家族様、本人様より聞き取りを行い、ご本人様の生活歴を確認している。また、入居後も家族様やご友人の方からお話を聞きながら、情報を集めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状態を関わりながら確認し、健康状態などもチェックシートや経過記録を通して現状の把握に努めている。 パソコンなどが苦手な職員が多いので、紙ベースの経過記録と大きいサイズのチェックシートを使用して情報の共有に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からのニーズをお聞きし、プランに反映するようにしている。居室担当は特に設けていませんが、ケアマネを中心にモニタリングを行い変更点がないかを確認している。	長期目標は1年、短期目標は半年で設定し、モニタリングが実施されている。入居時の初回、介護認定更新時、及び状態変化時に介護計画の見直しを行い、計画内容は利用者個別の状況に基づき、居室の掃除支援や排泄支援の方法などが詳細に記載されている。職員は計画に関する会議にも参加し、計画変更があった際には出勤時に確認する業務日誌と一緒に並べ、随時計画内容が確認できるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化が見られれば、申し送りを行い介護記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には医療機関の受診は家族様対応ですが、その時の状況に応じて家族様に相談して、職員で対応したり、往診に切り替えたりしている。施設外の病院受診などでどうして家族様が対応で着ない場合は、介護タクシーを利用して付き添いをお願いして病院受診ができるように行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サ高住から入居された方など、併設しているサ高住やクリニック絆、スタッフ、看護師、入居者様との関わりを継続できるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様が入居前に診てもらっていた、かかりつけ医の変更を求めることなく、入居後も継続してかわりを持っている。	同一建物内の2階のクリニックが協力医療機関となっているため、訪問診療の対応も行っている。さらに令和6年10月より「医療連携体制加算」を取得し、訪問看護ステーションの協力の下、安心安全な医療体制を整えている。精神科、歯科などの他科受診については、家族にて対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、小さな変化に気づいたら、看護師に相談し、受診の必要性があれば看護師より併設のクリニックに連絡し、受診または往診し医師に診てもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病院のMSWと連携を取り、必要な情報提供を行い連携を図っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について、ご本人様の状態に変化が生じたときに、その都度、ご家族様に医師、看護師と一緒に説明して同意を得ています。	契約時に、重度化した場合や看取り介護加算などについて事業所の方針を説明し同意を得ているが、状態に変化があった場合は、医師を中心にカンファレンスを行い、家族へ今後の意向を確認後「看取り介護についての同意書」を得ている。訪問看護の協力を得ながら、24時間点滴投与中の利用者が、徐々に口から栄養補助食品なども摂れるように回復している例もある。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルの活用。フローチャートの確認。具体的な訓練などは行えていません。	緊急時のフローチャート、緊急連絡先は整備され、急変時や事故対応については、看護師へのオンコール体制が整っている。職員は、ヒヤリハットや事故報告書の記録と周知を行い、事故状況→対応→原因→対策の流れを申し送り時にも確認しているが、「ヒヤリハット」の報告が少なく、今後の課題となっている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的の実施している。	火災、消火、避難訓練実施マニュアル化し、全職員に周知している。	感染対策マニュアル、衛生管理マニュアル、災害対策マニュアルの整備がされているが、具体的な担当者や役割分担が不足しており、複合施設全体での取り組みが急がれる。他のグループホームと「災害時等における施設利用の協力に関する協定」を結び、相互間で災害時のサービスの確保と利用者の安全確保などを担保できるよう備えている。	令和5年9月以降、管理者の異動が影響し避難訓練が実施されていない。また、感染症対策に関する委員会の開催も行われていない。BCPについては資料の準備段階にとどまっており、今後は複合施設全体での取り組みと、災害対策に向けた備蓄の実施が期待される。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性に合わせて対応しており、言葉のかけ方など気を配りながら行っている。	個人情報保護方針、使用目的についてのファイルが閲覧できるように準備されている。バイタルのチェックシートなどは出来るだけ、利用者の名前ではなく、G1などと表記して職員で共有できるように配慮している。利用者の個人ファイルは、事務室内で施錠して保管しており、運営規程や就業規則には、利用者のプライバシー保護や守秘義務が謳われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をする際には必ずご本人様に意思確認を行い、入浴、トイレなどの案内の声掛けを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、その日の活動内容は入居者様に相談しながら実施している。また、一人ひとりのニーズに合わせ適宜、活動を個別にこなしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着替えを行い、着替えの際には本人に選んでもらっている。 破れた衣類などは本人様に確認してもらい、ご家族様に報告して必要な対応を行っている。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食をパンや白米を選べるようにしている。好きな飲み物などはご家族様に用意してもらい常備して、水分摂取につなげている。 クリスマスなどのイベントではケーキ食べ放題など楽しみもある。 食後は食器洗いなどを入居者様に行ってもらっている。	管理栄養士が法人厨房にて調理した献立が3食、配食されている。個々の利用者に合わせた食事の形態を取り入れ、偏食の利用者にパン粥を提供して食が進んだ好事例もある。おやつレクでゼリーを作ったりクリスマスなどの食レクで「ケーキバイキング」を楽しむイベントを開催している。点滴投与中の利用者に、時間をかけて食事介助を行い、回復の兆しが見えている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェック、月一回の体重測定を記録し、体重増減には医師に報告・相談している。 嚥下機能や食思に変化が見られた際は、医師及び管理栄養士に相談して、入居者様の栄養管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄や歯磨きなど声掛け案内して、入居者様の状態に応じ、対応を変えてできる限り自立に向けたサポートをしている。介助が必要な方は、職員が口腔ケアを実施して口腔内の清潔を保持している。また、食事を食べず寝たきりの状態においてもしっかりと口腔ケアは行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24H排泄チェックを行い排泄のタイミングを予測し、入居者様に合わせた排泄ケアの時間を設定している。職員もしっかりと周知している。	居室内にトイレが設置されており、本人のタイミングで排泄が出来、夜間も居室内で利用する方や睡眠を妨げないよう夜間のみパットを利用している方もいる。排泄、水分、食事、バイタル等が一覧表で作成され、日々の状態がひと目で分かるように工夫されている。排便の状況がすぐに分かるので、看護師へ下剤の使用について相談することができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24H排泄チェックを行い便秘などの際は、医療従事者に相談して、個別に必要な対応を行っている。 また、水分摂取をこまめにするように声掛け促しを行っている。 毎日、決まった時間にテレビを使いリハビリ体操なども取り入れている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の案内に断られた際には、時間をおいたり、日の変更を行い対応している。 入浴の時は、コミュニケーションを大切に、入居者様が楽しく、入浴を済ませることができるように心がけている。	週2～3回のシャワー浴での支援を行い、入浴拒否の利用者へは時間を変えて声掛けするなどの工夫や、清拭での支援も行っている。全介助が必要な方は、デイサービスなどでストレッチャー浴が出来るよう配慮している。浴室、脱衣所も広く清掃用の洗剤なども利用者の動線の妨げにならない足元に収納し、安全なスペースを確保している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、仮眠の促し声掛けを行っています。 夜間においても、入居者様の眠たいときに居室に案内するようにしています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情のファイルを置き、いつでも確認できるようにしています。 また、本人の状態の変化や副作用等が確認出来たら医師に相談するようにしています。	服薬準備の担当者が決まっていないため、その日の日勤、夜勤の担当者が食後に名前入りケースへ入れ服薬の直前に職員同士でチェックを行い、与薬している。管理者は、与薬時に焦らず、落ち着いて出来るよう職員へ声掛けをしているが、1月に誤薬と5月にも薬入りの水を別の利用者が飲んでしまった事故があった。その都度、状況確認、原因と対策を検討している。	服薬については、注意深くダブルチェックを行っているが、残薬管理に課題があるため、今後、一部の方が利用している療養管理指導を検討している。誤薬事故の対策を職員で再検討し、服薬マニュアルの見直しと整備に期待する。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近くの看護大学までの散歩、施設内の中庭の散歩などは希望があれば適宜行っています。 月に一回程度は、車でドライブで外出しています。 特定の入居者様ですが、食器洗いの役割を担ってもらっています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様対応で、外部病院受診に行ったりと協力してもらっています。	日常的に3階にある中庭の「アトランティス広場」で散歩をしたり、職員のペットの犬に触れ癒され、ミニトマトに水やりをして、収穫している。時には、看護大までの散歩や近所のコンビニへの買い物など、家族から預かっているお小遣いを使って買い物を楽しんでいる。月に1度はワゴン車で海や利用者の故郷へドライブしている。家族と外出、外泊を楽しむ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人専用の財布を用意していただき、家族様よりお小遣いを預かり施設で管理しています。 近くのコンビニまでの散歩やドライブなどの時に取り出し、買い物や買い食いを楽しんでいます。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所内の電話を使用して、ご家族様、友人への電話ができるようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、四季のものを飾り、壁面画の作成も一緒に行っている。一人ひとりに合わせて、居室は照明設定しており、テレビ、ラジオの音量にも注意している。	オープンキッチンで、食堂やリビングが見渡せ、壁には、職員と一緒に作成したちぎり絵やドライプでの写真を掲示している。食事の時間にはBGMを流して集中できる環境を整え、日中は、月間のレク活動表を基にリビングでの体操や懐メロを歌い、笑い声が終始聞こえていた。共用部清掃は、毎日業者が行い、居室は主に職員による清掃で除菌などで環境整備を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファが設置されており、入居者同士のふれ合いの場となったり、くつろげる空間ともなっている。また、共有空間には一人で座って過ごす場所もあります。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、机と椅子も設置しておりゆっくりとできるスペースとなっている。居室内のものは、入居者が自宅で使い慣れたものを持ち込んでもらっている。ご家族様との思い出の写真などもいつでも見られるように飾っています。	居室の設備は、電動ベット、クローゼット、椅子、机があり、テレビや冷蔵庫を持ち込んで自宅と同じように過ごしていたり、清掃道具を整え、掃き掃除をしている利用者もいる。洗面台やウォシュレット付きトイレが設置されているので、朝の整容や口腔ケアなどゆったりと行え、家族や孫の写真などを飾ってその人らしい居心地の良い空間になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内は、トイレの位置がわかるように表示したり、開放しトイレだとわかるよう工夫している。ご自分の部屋がわかるよう名前を大きく表示したりしている。		